

## 郷土の植物研究家を紹介する展示 鹿角市の図書館

鹿角の山野に自生する植物の研究を続けた男性を紹介する特別展が、鹿角市の図書館で開かれています。

鹿角市毛馬内の図書館が今回企画したのは、鹿角市大湯に住んでいた植物の研究家で、故人の米田博さんを紹介する特別展です。

大正9年、大湯生まれの米田さんは、市内の小中学校で教壇に立つかわら、地元の野生植物の観察と記録をおよそ60年にわたり続けました。

そして晩年に、地域のために役立ててもらおうと、手作りの標本や、買い集めてきた貴重な図書などおよそ2千500点の史料を十和田図書館に寄贈しました。

それらは図書館2階にある特別室「みどりの文庫」に収められていて、今回はその一部をギャラリーに展示しています。

並んでいるのは、写真と解説付きの標本や、出版物、写真、それにフィールドワークで使った道具などです。

また写真のなかには、釣り鐘状のかれんな花をつけながら、強い毒性をもち、国のリスクファイルにも載っている珍しい花「ハシリドコロ」も見られます。

このハシリドコロは、米田さんの市内での発見が、当時の植生の北限を更新させていました。

十和田図書館では、「鹿角にも牧野富太郎のような人がいたことを知ってもらい、偉大な功績を知るとともに、鹿角の植物に興味をもってほしい」としています。

この企画展は今月30日まで開かれているほか、23日にはみどりの文庫が一日限定で解放されます。



(写真はクリックすると見られます)